

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和2年度中間評価結果表

大 学 名	国際大学
整理番号	B21
構 想 名	I U J E v o l u t i o n ーアジアのグローバル・スタンダードを世界標準へー

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価

(総括評価) <b style="font-size: 2em;">A	これまでの取組を継続することによって、事業目的を達成することが可能と判断される。
(コメント) <p>本構想は、「アジアのグローバル・スタンダードを世界標準へ」の理念の下、国際社会で活躍できる高度な専門知識を持った職業人の育成を実践してきた大学院大学としての実績を活かし、アジア・アフリカ地域を中心として更なる国際化とグローバル人材の育成を目指すものである。</p> <p>構想実現に向けて、総じて十分な取組がなされていると評価できる。外国人教員の割合が90%近くあり、留学生比率も90%と非常に国際的な大学であるが、国際援助機関の奨学金を積極的に受託して優秀な留学生（現役官僚など）を受け入れるなど、即戦力となるグローバル・リーダーの養成に継続的に取り組んでいる。また、留学生修了生のネットワークを有効に活用して海外展開をしており、民間企業とも連携した実践的な教育の取組となっている。さらに、学長の諮問機関として大学人事委員会、大学カリキュラム委員会を設置して、学長の補佐体制を強化し、学長を中心に戦略的かつ迅速な意思決定による大学運営を進めている点も評価できる。</p> <p>一方で、日本人学生の獲得と日本人学生の国際化を推進することが依然として課題に挙げられる。本構想では日本人学生の割合を30%に増加させることを目標にしているが、現在のところ未だ10%と、目標との乖離が大きい。日本人学生の確保に向けて、魅力的なダブルディグリー・プログラムを構築して学生を海外に派遣するための計画的な戦略とその着実な実施が必要である。</p> <p>財政支援期間終了後を見据えた自走化について、国際大学に留学する外国人学生は、国際協力機構、国際通貨基金、アジア開発銀行、世界銀行等の奨学金を確保しているが、公的な奨学金を持った留学生が減った場合の対策を準備しておくことが求められる。また、国際関係学研究所と国際経営学研究所の修士課程は、20%から30%程度の定員割れとなっており、自走化に向けた財源確保においても日本人学生の獲得が急務である。企業からの寄付金が減少している点についても、早急に対策を検討することが望まれる。</p>	